

今福まちづくりセンターの新たな取組

事業名

今福地区まちづくり委員会「もやい市」×今福まちづくりセンター社会教育部
もやい市に学びの場(令和3年6月～12月 計7回)

P

事業の目的(解決を目指す課題)や見込まれる成果

- ① もやい市の賑わいの創出
- ② 親子の地域参画のきっかけ作り
- ③ 多世代交流(活動人口の増加)

D

事業の概要 「もやい市号」の買い物バスの待ち時間を利用した1～2時間程度の学びの場

【6月】保護者世代女性組織「ゆるり」によるフリマ・雑貨販売(販売チャレンジ①)

【7月】ワンコインカフェ 【8月】リアリバさんによるウクレレとうた生演奏

【9月】スマホ教室・ワンコインパフェ「今福良品」

【10月】貸本屋・「スープストックイマフク」

【11月】保護者世代フリマ・スイートポテト販売(販売チャレンジ②)

【12月】ニット小物販売(販売チャレンジ③)・ユニット「FREE」ダンス披露

成果…もやい市の立ち寄りサロンとなり、買い物客の居場所作りになっている。

また、30～70代までの地域の方の販売や学びの場となることで、次のロールモデルとなり地域住民の活動意欲が高まった。

C

課題の解決度合(10段階の自己評価)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

				○						
--	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--

上記評価の理由

①賑わいの創出…もやい市の来場者が前年度より増加。今年度からスタートした買い物バスの運行とそれに併せて行っている学びの場の提供がよい結果を創出していると考えられる。

②親子地域参画、③多世代交流…コロナ禍により2件計画を断念し課題が残っている。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと(評価を10に近づけるために)

- ・50～60代の活動人口を増やす。参画したくなる企画を実現する。
- ・親子世代の活動人口を増やす。広報や宣伝方法を工夫する。

